

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275800082		
法人名	吉村商事 有限会社		
事業所名	グループホーム緑の風		
所在地	千葉県大網白里市南横川3786-1		
自己評価作成日	令和4年11月20日	評価結果市町村受理日	令和5年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和4年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私どもグループホーム緑の風では「一人にさせない、一人にならない」をモットーに、入居されている利用者様がお部屋に閉じこもり孤独で刺激のない生活を送ることがないように1日を共用のリビングで過ごし、重度の方も軽度の方も日々助け合いながら生活されています。介護職員は、利用者様一人ひとりが残存能力や、これまで培ってきた経験や特技、趣味などを生かしながら生き生きとした毎日が送れるよう「黒子役」に徹して介助することで人生の最期の時を迎える時まで「その人らしい生活」を送れるよう心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日当たりの良い緑豊かな場所にあり、近くの川の風を感じられることから「緑の風」と名付けられた。民家改修型で、家に帰ってきたと感じられる雰囲気づくりをしている。広い庭の畑では野菜が栽培され、利用者の食事に提供されている。理念をもとに、利用者を「一人にさせない、一人にならない」をモットーとし、家での暮らしを継続してもらう心がけている。日中は利用者全員がリビングに集まり、五目並べやカラオケを楽しんでいる。重度の利用者は居室をリビング横にし、会話などを感じてもらっている。開設から22年が経過しているが、風呂場、リビングのリフォーム工事を行い、利用者が安全・安心に生活できる環境整備をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議にも地域密着型としての意義をと なえ、地域で開催される福祉祭りや敬老会に 参加させていただいたり、近隣に住むご家族を招 いて焼き芋大会をするなど交流の場が持てるよ う努力している。(現在はコロナ渦のため中止を している)	理念は利用者の尊厳と自立を守り、心の 通った安心できる支援を目指す内容である。 理念は玄関、リビング、事務室に掲示されて いた。新人職員は入職時、理念に沿ってケ アを学び、意識して実践するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	自治会に加入し、ゴミ捨て場の掃除や地域で行 われるリサイクル活動に参加するなど近隣住人 にも当ホームが地域の一員だと思っただけ るよう努力している。	散歩で近隣の人と挨拶している。コロナ禍前 は地域の敬老会に参加したり、職員が自治 会のごみ拾いをしていた。地域の高齢者が ホームを訪れて入所の相談をすることもあ り、地域に馴染んだ施設となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	運営推進会議の議題として、認知症高齢者に対 する日々の困難事例に対する対応などを発表し たり、見学に来られる入居希望者やそのご家族 に対し可能な限りのアドバイスをを行うようにし ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	入居されているご利用者様の状況やそれに対 する対応、日々の食事作りの工夫や新たな余暇活 動などを推進会議の中で定期的に発表してい る。身体拘束・虐待防止について検討・記録	市職員、民生委員、近隣代表、利用者代表 とで隔月開催していたが、コロナ禍により、 書面会議を経て職員のみでの開催となった。 利用者状況、事故・ヒヤリハット報告と併せ、 身体拘束・虐待防止委員会も開催している。	現在はホーム職員のみでの開催だが、 各委員へ事前に会議資料や質問表 を送付し、意見を反映した議事録作 成をするなど、双方向の書面開催に なると更に良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	重大事故が発生した場合は速やかに市へ報告 できる体制を整えている。法改正及び新しい情 報に関して常にチェックするようにしている。	市の高齢者支援や福祉の窓口、ホームの 代表が出向いて報告や相談をしている。コロ ナ禍を受け、行政から検査キットが支給され ている。地域包括支援センターとも空き情報 などの共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解 しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	ホーム独自の身体拘束マニュアルを作成し、定 期的に研修を行っている。新しい職員が入 った際には個別で身体拘束についての研修を行 っています。運営推進会議にて毎回話し合い、 記録を残している。	身体拘束をしない支援に努め、年2回の研 修では事例をもとに話し合いをしている。身 体拘束廃止委員会は虐待防止委員会・運営 推進会議と同時に開催している。ホームの 共有スペースにはカメラが設置され、不適切 な関わりやすく気づけるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見逃ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	ホーム独自の虐待防止マニュアルを作成し、定 期的に研修を行っている。新しい職員が入 った際には個別で虐待防止についての研修を行 っています。運営推進会議にて毎回話し合い、 記録を残している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方はいませんが、申請時には管理者が申請方法や制度の説明など家族の相談に応えられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書及び重要事項説明書を全て家族や本人の前で読み上げ、不明点があれば都度説明したうえで納得を得た場合のみサイン・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の多いご家族には、その都度現状を説明し、希望や今後の対応などを確認し、ケアプランに反映するよう努力している。又、面会の少ないご利用者様には定期でサービス内容に対する結果や現在置かれている状況を説明し、要望がないか確認している。	コロナ禍前は面会時に、面会できない現在は、電話で利用者の近況報告をする際に、家族の意見・要望を聞いている。利用者には日々の会話で話を聞き、意思疎通が難しい場合は表情や動作から汲み取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	取締役が施設へ直接出向き、都度職員に対して必要なものはないか、困ったことはないか確認し、介護職員に負担がかからないよう物品を整えたり業務内容を改善している。又、不定期ではあるが職員会議を開催し、事前に職員個々より取ったアンケート結果をもとに業務改善できるよう努力している。	代表が日々の関わりの中で職員の要望・意見を聞いている。またグループウェアを活用した情報共有もしている。職員からの提案で、階段の昇降リフトを設置した。現在は風呂場、リビングのリフォーム工事に着手している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その職員の力量に合わせた役割を与え、それに対する手当を付与している。又、本人が希望し、会社側がふさわしいと判断した場合はパートタイマーから社員への昇格も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社員を中心に役職やその者の得意不得意なども考慮したうえで必要な研修には積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと制度の改正や日常の介護業務改善などの情報交換をし、サービスの質の向上に反映している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員配置をする上で、常に見守り担当を1名置き、心身の状態変化やご利用者様同士の人間関係によるストレスなどの不安や悩みに気が付ける体制を取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に時間をかけ面接することをご利用者様との関係性や入居する上での悩みや不安、ホームに対する希望などをアセスメントし、ケアプランに反映するよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至った経緯や、自宅での生活が難しくなった理由(周辺症状)などを面接時からアセスメントし、ケアプランの目標を定めたくえで日々達成できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯ものたたみなど日々の家事や庭の水撒き、畑仕事などご利用者様が培ってきた経験や得意不得意を考慮しながら手伝っていただくことでやりがいや生きがいをもって生活していただけるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出支援や通院介助を中心にご家族にも協力を依頼している。ターミナル期にはご家族との時間が多くとれるよう面会に制限を作らずいつでも受け入れるよう心掛け、遠方の家族など場合によっては施設に宿泊することもある。(現在コロナ渦のため自粛中)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通いなれた美容院でのヘアカットや家族が入所している近隣の特別養護老人ホームへの面会に職員が送迎や付き添いをして関係性を継続できるよう援助している。(現在コロナ渦のため自粛中)	馴染みの人や場所は家族や居宅のケアマネジャーから情報収集し、アセスメントシート・フェイスシートなどで共有している。コロナ禍前は、利用者の知人の訪問を歓迎し、リビングでの面会時にお茶を出していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度の方も食事やレクリエーションの際は離床する機会を設け、すべての入居者が日中は同じスペースで過ごされることで、お互いに思いやりや気遣いをされながら生活されている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退去されたご利用者様のご家族が来所し、民謡の会を開いてくださるなどの関係を保つことができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの短期目標にその方の趣味や趣向に合わせた具体的な目標を設定し、ご利用者様個々のモチベーションを向上しながら達成できるよう支援している。	利用者の日常の表情や会話の中に込められた思いを大切に考え、職員間で共有し、ケアに反映している。日々の暮らし方は、利用者の思いや家族の意向に沿って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特に初回アセスメント時は、本人だけではなくできるだけ多くの家族や知人から生活歴や性格などの聞き取りを行いアセスメントシートにまとめて職員と共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日内変動のある精神症状や体の動きなどを考慮して無理なく生活できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主に家族、介護士、主治医、看護師それぞれからの意見を聞き、ケアプランを作成している。	毎月モニタリングをしている。ケアマネジャーが提携の医師、看護師から情報収集し、グループウェアで職員と意見交換した上で介護計画を作成している。見直しは半年に1回だが、変化があれば随時におこなう。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の変化を経過記録へ記入し、全ての職員がいつでも閲覧できる状況にすることで同じ情報を共有し、同じサービスを提供できるよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や意欲によってその日の予定を変更している。変更が長期に渡る場合は、再アセスメントやカンファレンスを開催し、ケアプランを変更したうえでチーム全体で改善できるよう努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護支援ボランティア受け入れ事業の指定を受け、希望があれば傾聴ボランティアや外出支援ボランティアの受け入れをしている。(現在はコロナ渦のため中止をしている)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	退院後の不安定な時期やターミナル期などの医療依存度が高い難しい状況でも本人や家族が施設でのケアを希望する場合は、主治医及び併設の訪問看護事業所の協力体制が万全なためほぼすべての希望に沿えることができています。	ホームと契約している医師、看護師がおり、月2回、利用者の健康管理のための往診をしてあげている。専門医への受診が必要な場合は往診の医師から紹介状をもらい、職員が通院同行をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関より施設との契約で週1回程度看護師が訪問し、ご利用者様一人ひとりの健康管理をしている。異常がある場合主治医または看護師長へ都度報告し、しかるべき対応を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に対し、地域医療連携シートを作成し、情報提供に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成し入居時に家族へ説明するとともに、主治医からターミナルを宣告された時点でも家族へメリットやリスクを説明し納得していただいた上でご家族・本人の意向に合わせたマニュアルを作成し看取りを行っている。	利用契約時に利用者本人・家族へ、重度化した際の意向を聞いている。ホームでの看取りなど希望に沿った支援に努めている。看取り指針があり、ターミナル時は看取り計画書を作成する。看取りに関する研修計画もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時マニュアルを作成し、全ての職員が同じ対応がとれるよう定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、うち1回は消防署員を招いて初期消火や避難誘導の指導を受けている。また、河川の氾濫や津波災害など避難を要する災害に備えて運営推進会議などを利用して近隣住人に協力を仰いでいる。	年2回避難訓練、消火訓練をおこなっている。備蓄食料、スプリンクラー、発電機が設置されている。ホームに隣接して河川があるため、運営推進会議で氾濫や津波の時の対応について検討している。発電機の稼働訓練もおこなっている。	事業継続計画(BCP)の作成中だが、備蓄品の一覧表がまだできていない。また備蓄食料の賞味期限を把握できるようにする事も必要である。BCPの完成および賞味期限管理の仕組みづくりを期待する。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りなどでネガティブな内容を話し合う際は、ご利用者様が自分の事を話していることを悟られないようにイニシャルを使うなどの工夫をしている。	排泄、入浴時は特にプライバシーに配慮し、尊厳を損ねないような声かけをしている。職員は、利用者一人ひとりの生活歴を共有し、ホームで自分らしく和やかに過ごせるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	徘徊、失認、失行などの周辺症状がみられるご利用者様に対しても自尊心を傷つけたり、強制的に制止することはなるべくせず、できるだけ助言や一部介助、見守りをし自己解決や納得ができるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	庭の水撒きや食器の洗い物などご利用者様一人ひとりが大切にしている日課や仕事に対して、忙しさや業務の効率を優先せず、時間がかかっても行ってもらえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院や使い慣れた化粧品などご利用者様一人ひとりのこだわりを大切に、購入の代行や送迎を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様からリクエストがあれば、できるだけ希望に沿えるよう献立を決めずに対応している。また、庭で取れる野菜や果実の収穫から参加していただき、食べる楽しみを演出している。	食材は地元のスーパーで購入し、利用者の意見を聞いて職員が調理している。ホームの畑で収穫した大根の煮物が提供されていた。3時のおやつには職員の手作りケーキが提供され、我が家と感じられるような、リビングの雰囲気づくりをしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食は必ず3種類以上提供し、彩や栄養バランスを考えながらいろいろなものを少しずつだべられるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔が保てるよう、歯磨きを忘れてしまう方への声掛けや自歯、義歯の磨き方の指導など一人ひとりの能力に合わせた対応をしている。口腔ケア加算を取得し研修を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表を用いて一人ひとりの排せつパターンを把握し、適した時間にトイレ誘導することで失禁を予防している。	排泄の自立支援に力を入れている。布パンツで過ごしている利用者もいる。個別の排泄パターンを職員間で把握・共有して、トイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らないよう、繊維質の多い食材の提供や施設で手作りしたヨーグルトを毎日提供したり、適度な運動をすることで自然排便があるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には水曜日・土曜日が全体の入浴日であるが、夏場の多汗時などはできる限り希望に合わせて個別で対応している。入浴時間は、持病や体調を考慮した上で、ご利用者様個々のペースに合わせて湯船に浸かっている	風呂は週2回としているが、個別の状況に応じてそれ以外でも入浴できるように支援している。浴槽に浸かり、入浴を楽しんでもらうよう職員間で意見交換している。そのための浴室の改修工事もおこなわれていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の精神面や体調に合わせて、日中も個々休息できる時間を考慮している。就寝においては年齢やこれまでの生活歴を考慮して、ご利用者様一人ひとりのペースに合わせた就寝時間を設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と提携し、介護職員が管理しやすいよう日付、服薬時間別に分かれており、誤薬や飲み忘れの予防になっている。希望者には薬剤師による居宅療養管理指導も受けることができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の特技や趣向に合わせた活動を提案し、やりがいや楽しみを感じてもらえるよう努力している。又、認知症が進行し、これまで続けてきた趣味活動ができなくなっても、新たな活動を提案し、楽しみがなくならないよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の中には他施設へ入所されているご家族への面会を希望される方もおり、職員が付き添い月1回ほど外出される方もいる。ご家族も協力的な方が多く、定期的に墓参りや外食などに連れだしてくださっている。(現在はコロナ渦のため中止をしている)	利用者は日常的にホームの庭に出て、日光浴をしている。また畑の野菜や果物を眺めたり、収穫したりしている。コロナの流行が終息したら、お花見や外食、買い物などへ出かけ、楽しく過ごせるようにしたいと、職員が案を考えている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを避けるため、日用品の購入については一度ホームが立て替えている。ご利用者様が買い物する場合でも預り金から必要な分だけを渡して買い物してもらい、お釣りや残金はホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や家族からの電話が度々かかってくるため、取り次いでご本人様が直接お話ししている。手紙も同様にホームへ届いたものはご本人様に手渡し、返事を書きたいときは代筆や郵送を代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は、よりご利用者様同士や職員がコミュニケーションを取りやすくするため、アイランドキッチンに改修した。床も白を基調とした明るいものに替えている。季節の変わり目にはその月々の行事に関連した壁飾りや行った行事の写真を貼るなど工夫している。	リビングは日当たりがよく明るい。広い窓からは緑豊かな景色が見え、季節を感じる事ができる。古い建物ではあるが、室内は清潔で掃除が行き届いていた。安心な生活環境づくりへの職員の心意気が伝わってきた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には居室で一人で過ごすより、にぎやかな場所で他者とふれあいながら生活することが大切だと考えているが、精神面に不安のある方や体調不良の方は、居室で休む時間を決め対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し、布団や家具など使い慣れたものを持ち込んでいただくことで不安感を抑えることができるよう対応している。居室それぞれに職員の担当を配置し、衣替えや荷物の整理をすることで過ごしやすい環境を提供している。	居室は職員が整理整頓し、換気のために窓を開閉している。日光がよく入るため、布団を干したような効果が上がっている。好みの洋服や趣味の道具が持ち込まれ、自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	徘徊や転倒のリスクがあるご利用者様については、必ず職員を見守り係として配置し、危険が及ばないように注意している反面、移動に制限のないご利用者様に対しては、ホーム内に限り必要以上に制限することなく自由に過ごされている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと